

田平教会の皆さん本当にお世話になりました。

中田輝次神父です。七年間、この頁を書かせていただきました。何かお役に立つことをと、自分なりに考えて記事を寄せていきましたがいかがだったでしょうか。浦上教会時代の主任司祭と一緒に居た三人の助任司祭によく言っていたのは、「薬にも毒にもならんことはするな」でした。「薬」はもちろん必要ですが、時には「毒」（取り扱いが危険なもの）ということでしょうか（毒を吐いていたかも知れません。「毒をもって毒を制す」という諺もあります）。

旅立ちにあたり、お伝えしたいことは二つです。一つは、「田平教会は誇れる教会」ということです。中田神父がこれまで赴任してきた教会、どれもすばらしい教会でしたが、この田平教会ほど中田神父をワクワクさせ、奮起させてくれた教会はありません。教会役員は何かあればすっ飛んで来てくれました。子どもたちの祈りの先唱は、年齢を考えれば「大丈夫かな？」と見守るはずですが、ここ田平では安心して任せられました。女性部の皆さんは家庭のことがありながらもよく尽くしてくれました。きっと、場面によってはキツイ思いもしたでしょう。しかし、つらそうな顔一つ見せることなく、田平教会家族のため、主任司祭のため、よく奉仕してくれました。「キ

ツい思い」は肉体的精神的にだけではなく、時には経済的なこともあったかも知

知れません。中田神父の至らなから、それらの思いをされた方々には心からお詫び申し上げます。

もう一つお伝えしたいことは、「田平教会には他にはない宝がある」ということです。マタイ福音書13章44節に次のようにあります。「天の国は次のようにたえらる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。」感心したのは典礼委員会と育成会です。実はこの両方の委員会、どの教会でもあるのかというところでもありません。

そんな中、典礼委員会は「畑に隠された宝」を田平教会家族全員で分け合うために、毎月会合を開き、そのため身を粉にして（持ち物をすっかり売り払って）奉仕してくれました。典礼委員会のたゆまぬ奉仕のおかげで、簡単には見つからない宝物を掘り当てたような、価値ある典礼行事を果たすことができました。

典礼委員会が田平教会家族のために掘り当てた宝として「十字架の道行」を取り上げておきます。あの、重量感ある十字架を担いでの道行は、信徒会館で眠っていた十字架を見て思い付いたのでした。今や、ほかの教会の役員に「視察においで」と言

えるくらい立派な典礼行事に育ちました。育成会も、貴重なアクシオン団体です。規模の小さな教会ではここまで保護者の皆さんが教会行事、典礼奉仕、信仰教育に深く関わってくれるのは難しいです。本当に得がたい宝を持っています。どうか、この宝を保ち続けてください。もし可能なら、福江教会と下五島地区に育成会でおいでになってください！

言葉が足りず、ここで拾えなかった皆様にも感謝申し上げます。そしてこの「瀬戸山の風」を成り立たせているスタッフの皆さんにも心から感謝します。ありがとうございます。毎月続ける中での困難もあるでしょうが、まずは500号を目指してください。ここまでともに歩んでくださった皆さんにもう一度感謝を表して、「平戸瀬戸の花嫁」は福江にお嫁に行きます。

今後も嫁ぎ先から、主日のミサ動画をYouTubeに掲載していきます。チャンネル名はこうじ神父です。コロナが五類に分類されると、発信力のある小教区が「より魅力のある小教区」となっていくでしょう。これからは、田平教会と福江教会、互いに切磋琢磨です。実現したいことは今も頭の皿から溢れるほど湧き出しています。3月25日現在、チャンネル登録者は251人になりました。新しい目標は福江教会での「登録者数1,000人達成」です。

